

抗菌薬の血中濃度と臨床効果に関する研究のお知らせ

帝京大学薬学部では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2025年3月3日～2031年3月31日

〔研究課題〕

抗菌薬の薬物血中濃度と臨床効果に関する研究

〔研究目的〕

本研究では、抗菌薬の副作用と関係が深いリスク因子を明らかにし、リスク因子を持つ患者さんと持たない患者さんに分けて、安全で効果的な濃度範囲を検討することを目的としています。

〔研究意義〕

感染症治療に使用する抗菌薬は、患者さんごとに最適な治療を行うために、薬の血中濃度を測定し、そのデータを基に投与量や投与間隔を調整します。この方法をTDM(Therapeutic Drug Monitoring、治療薬物モニタリング)といいます。TDM対象の抗菌薬には、有効な濃度範囲がガイドラインで設定されていますが、副作用のリスクがある患者さんでは、その範囲内でも副作用が出ることがあります。そのため、治療薬の変更や中止が必要になることがあり、治療がうまくいかないことや、患者さんの予後が悪化することがあります。この調査により得られたデータを基に、患者さんの背景に応じた抗菌薬の投与設計を行い、治療成績の向上を目指します。

〔対象・研究方法〕

＜対象となる患者さん＞

2009年1月～2024年12月までに感染症の治療のために、TDM対象の抗菌薬(グリコペプチド系抗菌薬・アミノグリコシド系抗菌薬・アゾール系抗真菌薬)を使用し、血中濃度を測定した患者さんを対象とします。

＜利用する情報＞

診療の一環として取得された情報：血液生化学検査値・血液一般検査・併存疾患・併用薬・バイタル情報を収集します。収集した情報を用いて統計的に解析します。

〔研究機関名〕

この研究は、帝京大学を代表研究機関(研究代表者 松木 祥彦)、以下を共同研究機関として行います。
柏厚生総合病院、日本医科大学千葉北総病院、東京歯科大学市川総合病院

〔個人情報の取り扱い〕

情報は、研究実施中および終了後も特定の関係者以外がアクセスできないように厳重に管理します。保管期間は研究終了後10年とし、その後廃棄します。情報を取り扱う際は、研究対象者の秘密保護に十分配慮し、個人を識別することができないように加工し、研究対象者番号を付与します。本研究結果が公表される場合も、個人を特定できる情報は含みません。また、本研究の目的以外には情報を利用しません。

対象となる患者さんで、研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者：氏名 松木 祥彦	職名 講師
研究分担者：氏名 渡辺 茂和	職名 教授
所属：帝京大学 薬学部	
住所：東京都板橋区加賀 2-11-1	TEL:03-3964-1211 (代表) [内線 44432]